

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
安芸高田市立高宮小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

学級数	通常学級						特別支援学級	合計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
	1	1	1	1	1	1	6	2	8

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	6	1	5	5	
算数	5	1	5	5	
理科	6	1	3	3	
理科	5	1	3	3	

授業時数 計 16 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	4	1	5	5	

授業時数 計 5 (b)

授業時数 合計 21 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	D	推進	推進	専科	C	A	D	B	A	A	A
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: B)	A	A	C	推進	推進	専科	C	B	D	B	B	B	B
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1	
4年 1組 (担任: C)	C	B	B	推進	D	専科	B	A	C	A	D	C	
週当たり標準授業時数	7		2	5	2.6	1.7	1.7	3	1	1	2	1	
3年 1組 (担任: D)	B	B	C	D	C	専科	B	A	D	A	C	D	

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6年	14	A	5年	国語	4	13	9.6	22.6
			5年	書写	1			
			4年	体育	3			
			4年	外国語活動	1			
			3年	体育	3			
			3年	外国語活動	1			
5年	16	B	6年	外国語	2	16	6.7	22.7
			4年	書写	1			
			4年	社会	2.6			
			4年	図工	1.7			
			3年	国語	6			
			3年	書写	1			
			3年	図工	1.7			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<p>〈効果のあった取組〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統性のある授業づくり (小数、分数など) ・算数、理科に特化した教材研究 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回のチーム会議で児童の様子などを交流 ・教材研究の際に児童の実態を担当職員全員で共有、確認 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が多くの職員と関わる機会の増加 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き時間を活用した教材研究、授業観察 ・複数体制での児童の多面的な見取り ・課題の整理、取組等のチームによる支援 ・支え合う体制による職員の精神的安心感 	▶	<p>〈成果〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に算数科では、学年は違えど同領域での共通点がたくさんある。そこを意識した指導をすることで、既習を思い起させると共に、次年度以降へつなぐことができやすい。 ・理科では、予備実験を確実にいき、児童が興味をもって実験ができるよう準備をし、意欲的に進めることができている。 ・算数科における市の学力調査結果は、以下の通りとなった。(6年生:81.4、5年生:68.7、4年生:82.4)どの学年も全国平均を上回る結果となった。 ・理科の授業についての児童アンケートにおいて、「ア、理科の授業が好きですか→80%」「イ、実験や観察は楽しいですか→96.6%」「ウ、自分で予想を立てて実験や観察を行っていますか→96.6%」となった。イ、ウについては目標値を上回った。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科や活動、担当職員による児童の様子への捉え方や、児童の強み、弱みを共有することができる。 ・複数の職員で児童を見ることにより、授業でのつまずきの予想や、課題となる点の共通理解が図りやすくなった。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科によって担当職員が変わることで、児童がたくさん大人と関わり、言えないことが言えたり困ったときに頼ったりすることができている。 ・校内アンケートの「分からないことを聞いたり、困ったことを聞いたりできる先生がいる」という項目において、肯定的回答が94%だった。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に3~5の空き時間が確保できるため、十分な教材研究ができている。 ・空き時間が増えたため、他の学級の授業を見て、自分の授業づくりの参考にしたり、お互いに助言したりしている。 ・複数体制で児童を見ることで情報共有、取組の方向性が揃い、課題解決において職員の精神的安心感が生まれた。(働き方改革アンケート肯定的評価100%)
<p>〈課題〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて行う学年の授業もあり、教材研究が不十分なものもある。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「自分のよいところを、友達や先生が気づいてくれています」の項目の肯定的回答率は89%だった。(目標数値90%) <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校を見据えた系統的な指導が不十分である。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科によって担当が変わるため、指導の統一が図りにくいことがある。 ・急な時間割変更がしにくい。 ・保護者との繋がりがづくりが難しい。 ・職員間での情報共有、時間の確保が難しい。 	▶	<p>〈対策〉</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加したり、校内での授業観察を増やしたりすることで、教材研究を深めていく。 ・アンケート結果より、実験や観察については肯定的回答が多かったが、理科の授業自体には苦手意識をもっている児童が一定数いる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の85%よりは向上したが、引き続き授業内外の様々な場面で、児童の行動を肯定的に評価する機会を増やし、職員同士でも共有する。 ・児童同士、お互いに認め合う活動を増やす。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科、理科を中心に、中学校進学を見据えた指導や活動を取り入れていく。 ・来年度より、中学校と合同で算数・数学科の研究を進めていく。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム会議以外で発生した共有すべき事案については、共有方法を明確にし、確実に周知できるようにする。 ・良いことも悪いことも含め、学校として定期的に保護者と連携する。(連絡ノート、連絡メール、電話、口頭) ・連絡掲示板を作成し、時間割変更などをそこに書き込んで周知する。 ・職員間の情報共有が重要で、その時間確保に苦慮した。(職員の時間外勤務、教科担任制加配関係者5人は昨年より1日当たり1人平均16分増加)